

対象案件	北広島市子どもの読書活動推進計画(第2次)素案について
意見募集期間	平成23年7月1日(金)から平成23年7月31日(日)まで
担当部署(問合せ先)	教育部文化課(北広島市図書館)電話 011-373-7667
意見提出件数	意見提出者数 14人
	意見提出件数 30件

提出のあった意見の概要	市の考え方 (案を修正したときは修正内容)
<p>計画全体</p> <p>北広島市全体で子どもの読書推進のため、施設や啓発など、様々な面から取り組んでいく点が良いと思いました。</p> <p>子どもたちへの読書普及活動を10数年続けている団体として、この計画素案は大変興味深く、そして学ぶべき課題でありました。</p> <p>子どもたちの読書活動をめぐる情勢は、この10年ずいぶん変わってきているのがわかります。読書離れが云われて久しい中で、図書館と学校と地域・家庭の果たす役割、私たちボランティアができること。人と人のつながりを大事にして取り組んでいきたいと「考える指針」になるものです。</p> <p>市全体で読書活動を推進しようとする計画が感じられました。</p> <p>小さい子どもは親(大人)が選ぶ本がすべてですから、優良図書に出会える機会を増やせたら...と思います。</p> <p>保育園でも職員研修をはじめ、良い絵本を保護者に紹介できるよう懇談会やクラスだよりの工夫をしているところです。</p>	<p>計画全体について、肯定的な意見が多いものと捉え、策定を進めてまいります。</p>

昭和 25 年に旧役場内に「広島文庫」が始まり、道立図書館の移動図書館車が来村し、地域の皆様方が読書に親しむ機会を得た歴史を知りました。

長い歴史の道のりを経て平成 10 年 10 月に現在の充実した市図書館を利用できる私たちは、とても幸せで、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の計画の素案を拝読し、大きな基本理念に基づく緻密な体系に驚きました。当地の子どもたちは何と恵まれた環境で読書ができる教育を整えてもらえているかを知り、豊かさを大切にしてもらいたいものだと思いました。進歩していく現代の中で情報化社会が進み、利便性ばかりが追及され、電子書籍も良いのですが、子どもたちには学校図書館や市図書館で、自らの手で本を選び、ページを繰って楽しめる読書感覚もしっかり身につけて欲しいものだと思っております。

この計画書は、それを実現させてくれるものと確信いたしました。市図書館職員の皆様の水先案内人としての敬意とますますのご努力を期待しております。

読書普及の観点から見ると十分だと思いますし、実際の実現力もあって今までたくさんの人々が恩恵にあずかったと思います。このまま継続すれば...

表記

各ページで「家庭・学校・地域」、「家庭・地域・学校」などになっている。家庭、地域、学校が良い。

国の計画と同じく「家庭、地域、学校」に統一します。

第 1 章 子どもの読書活動推進計画(第 2 次)について

1. 計画策定の趣旨について

冒頭、法律が制定された経緯が簡単に述べられていると法律制度の意義がわかって共感しやすい。

「本市は、」という記述があるが、市のどの機関が主に動いているか記述があったほうが具体的にイメージできる。

4. 計画の期間について

国や道の推進計画を受け、この北広島市に合わせた計画が系統立ててまとめられていると思う。なぜ今読書活動が必要なのか、そのためにはどんな目標をたてて進めていかねばならないのか、方向性が打ち出されている。

ただ、10 力年という長期計画であるので、短期ごとに具体的な計画を検討し、実践していくべきと考える。

序章で解説をします。

まち全体で取り組む姿勢を表すため、「本市」のままとします。

年度ごとに見直される教育推進計画に反映される旨を記載します。

第 2 章 子どもの読書活動の現状と課題

(なし)

第 3 章 子どもの読書活動の推進のための方策

第 3 章全体

家庭、地域、学校での子どもの読書活動を支えているいろいろな活動がすでに長いこと培われてきていると思います。特に図書館フィールドネットの子どものための読書推進の活動は読み聞かせ・おはなし会等積極的に地域・学校へと活動の幅を広げ、推進の一役を担っていると思います。

また、子どもに読ませて大人が聞くような活動も欲しいものだと思います。

市民協働による読書活動の推進を重視し、参考としていきます。

第3章1節 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

優良図書の情報提供

次世代の担い手、都市にふさわしい人材、生きる力という点で子どもを思うと、隣人との意思疎通や連携も欠かせない。中学生の読書離れは自立の一つの過程とも思えるので、彼らが仰ぎ見ている人々、身近にあって頼りにしている人々の読書経験が語られれば、それは生きて伝わると思いました。

良書の選定・薦めはとても良いと思っています。若い人々の読書と現実世界での経験の相乗効果があるようにと願いますし、本を通していろいろな人との出会いがあることも財産になると思います。

優良図書の情報を市民は求めている。子どもの発達段階に応じた「おすすめ絵本」「おすすめ物語」等の紹介を児童図書コーナーの掲示板やパンフレットでも行う。「中学生（小学生）はこれを読め！」「自分を育てる読書のために」「未来に残したい一冊」などなど..。優良図書に対するボランティア団体の研修も望まれる。

他の子育て支援事業との連携

ブックスタートはないが、乳児健診や子育て支援事業が行われる場での絵本の紹介や読み聞かせなど、児童家庭課や健康推進課との連携で読書普及の場を広げる機会が得られるのでは。

家庭における子どもの読書活動の支援

子どもとメディア（ゲーム・テレビ・インターネットなど）が読書離れの要因となっているし、乳幼児期から幼少期にメディア漬けでは、人と関

子どもの発達段階に応じた優良図書情報の提供について、多くの意見をいただきました。今後の参考としていきます。

まち全体の取り組みとして、連携事業を検討する上での参考としていきます。

家庭での読書活動推進について、大人への啓発活動としても、参考にしていきたいと思います。

わる中での遊びの実体験などがないままでは、心や身体の成長に大きな影響が出ると警鐘を鳴らしている方がいる。

まわりの大人が、「ノーゲームデイ」や「テレビは1日 時間」とルールを決めたり、テレビゲームより楽しい読書のおはなし（幼稚園・学校・集団での講演会）に取り組んでいく必要がある。

生活の質の向上は読書からとも言える。テレビを見せっぱなしで会話のない親子より、ひざに抱いて絵本を読み聞かせしている育児の方が子どもにとって幸せなことにまちがいはない！そして良い本と出会うこと。

幼稚園・保育園等における読書活動の推進について

多岐にわたっての計画があるのだなと読ませてもらいました。幼稚園での読書の一番の目的は、まずは文字や数に関心を持たせることです。そのためには図書室などで絵本を自由に読める状態を作ることであったり、年代に合った月刊誌も活用しています。

そして、教諭がその時に応じた読み聞かせで本に興味を持たせること、そして将来的には、その子ら自らが読書に興味関心を持って本を求める状態をつくることを目指していますが、難しく、どんな形の連携ができるのか手探りの状況です。

今、話があるのは「小豆」ですので、まずはそこからだと思っています。

学校等における子どもの読書活動の推進

子どもたちも学年が進むに従っているいろいろな学習も難解になり、興味や関心も多様に変化します。読み聞かせやブックトークもきっと楽しいものだと思いますし、続けてほしいことですが、ど

学校図書館のみならず、幼稚園・保育園の図書館活動を重要な視点として参考としていきます。

中学校図書館の環境整備の課題と併せ、検討を進めていきます。

うしてプツンと糸が切れていくのか。中学・高校でも一斉読書時間を続ける学校教育がほしいものです。

豆次郎の取り組みのおかげで、読書に興味をもつ子が増えてきました。

豆次郎の取り組みは、子どもたちの図書への関心はもちろん、本が身近にあるという環境が整えられ、良い取り組みである。今後も継続して取り組んでほしい。

児童図書学校巡回事業（豆次郎）の教育的効果は十分認識されており、本計画内でも継続されます。

第3章第2節 読書環境の整備

学校図書館の整備充実について

学校図書館の目指す方向性として、学校図書館には児童・生徒の「学習情報センター」としての機能もあることを表記してはどうでしょうか。

子どもたちにとって一番身近な学校図書館は、いつでも本がある読書推進の「たまたま箱」のような部屋だと思います。ますますの整備と充実のエネルギーを注いで欲しいです。15pに「時代と合っていない内容の図書」とありますが、現代と過去を併せ識ることと関係ないのでしょうか。また、どのように見分けて処分していくのでしょうか？

ブックトークなどの活動時、その場で紹介した図書を読むことができる複本などが考えられると良い。読みたいと思ったときに少しでも多くの子が読めるように。

おはなしの会の一員として、北広島市の子どもたちの読書推進に関わることができて、うれしく思います。幼児・小学生にとっては教育機関や図書館などの本の充実がすすみ、とても良い環境になってきたと思います。気になるのは、中学校の

計画は、子どもの学習支援の充実を掲げていますが、その意義や、必要な取り組みについて詳しく記載することにします。

「時代と合っていない内容の図書」を、詳しく表するような記載にします。

図書の更新による充実は、高学年・中学校の学習にとって特に重要と認識し、参考にしていきます。

図書室の現状です。冊数があるわりに、子どもたちが借りたいと思う本がないのです。朝読書もあり、読書はしていますが、自宅から持参するのが多く、それも限界があります。ぜひ、改善をお願いします。

課題で書かれていたように、児童一人当たりの年間貸出冊数が20冊に対し、中学生が3冊というのは、絵本から小説へと読書の変化が上手くないからではないかと思いました。

小学校中・高学年や中学生が読みそうな本の充実や、そのような年代向けの啓発や取り組みにも力を入れていただければと思います。

「12学級以上の学校に対しての司書教諭の配置が義務づけられたことにより」とありますが、北広島市は全学校の配置を考えて欲しい。魅力ある学校図書館、教職員の意識の向上、学校図書ボランティアの育成等での学校間での偏りなくつながっていくと思います。

北広島市図書館・分館等の整備・充実について

「夢プラザ」も知らない人が多いが、図書館の分館があることを知らなかったという人もいる。知れば、「こんなにきれいで新しい本があって！！」と喜んでいる人もいる。道路を走っている車からもわかる親しみのもてる素敵な案内板・表示があったらいいと思う。

大曲分館の絵本・児童書のコーナーに絨毯敷きのコーナーがほしい。このコーナーはいつも利用客が多く、特に2人以上の幼児を連れた大人の方の本選びや、読んで聞かせるような場として。

人的な面での学校図書館の充実も重要と認識しており、今後の参考にしていきます。

全体的な市の図書館整備の中で参考にしていきます

**子どもの読書活動推進に係る体制の整備・充実に
ついて**

図書館（フィールドネット）と学校図書ボランティアとの交流・連携がもっとあっても良いのでは？ 人と人のつながりが「子どもと本をつなぐ」ことになる。

読書まつり等にも学校図書館で活動している人たちの積極的な参加が望まれる。広がることの大切さを原動力に。

地域における読書ボランティアの交流も重要であり、今後の参考にします。

**第3章第3節 子どもの読書活動に関する理解と
関心の普及**

啓発・広報事業の推進

図書館フィールドネットの活動は、とても誇れるものだと思いますが、フィールドネットの中でも、このような計画のあることを知っている人はほとんどいないと思います。

図書館としてもPRしていく必要があるのではないかと思いました。推進の一翼を担っている大切なボランティアさんだと思います。

子ども読書の日（4月23日）、子ども読書週間（4/23-5/12）があまり周知されていない。

秋の読書まつりほどの規模でなくとも「拡大おはなし会」などの催しや取り組みをして読書への関心を高めること。「ゴールデンウィークは図書館に行こう！」などの企画。

ボランティアをはじめ、成人市民にも、ご理解・ご協力をいただけるよう努めていきます。